

ティーチング・ステートメント

所属 横浜商科大学

名前 秋山友志

作成日 2020年2月5日

【責任】

商学部観光マネジメント学科に所属し専門科目である観光を中心とした教育・研究活動を行っている。主たる教育活動は観光関連科目（現代の旅行業ビジネス、旅行商品の開発研究、世界のツーリズム、イベント企画・運営研究）の担当、2年次PBL関連科目（社会学基礎演習3・4）の担当・コーディネーター、ゼミ生の研究支援（ゼミナール1・2・3・4・5・6）、ホスピタリティ研究部の顧問である。

【理念】

学生には、「ICTスキルを持つ」ことや「社会・地域で働くことの楽しさや難しさを知る」ことのできる人財になってほしい。これからの時代は、AI（人工知能）や5G（第5世代移動通信システム）の普及などにより高度情報化社会を迎え、日本や世界での社会や生活に関する基盤の環境が大きく変わり、社会で働くことや地域で働くことの意義や価値観の変容が求められている。

そのような環境の中で、学生が「ICTスキルを持つ」ためには、学生の学習・研究活動の中で、PCやスマホなどを学習や研究のツールとして自ら活用し、実社会でも不自由のない高度情報化社会の恩恵やその活用方法を理解できている必要がある。また、学生が「社会や地域で働くことの楽しさや難しさを知る」には、大学という限られた環境だけではなく、社会や地域との接点を持ち、社会や地域で働くことやそこで活躍する人財に触れて、自らその意義について学ぶ機会が必要である。

学生に対しては、「ICTスキルを持つ」ことで高度情報化社会の恩恵を受けられ、「社会や地域で働くことの楽しさや難しさを知る」ことで、社会や地域で働くことやそこで活躍することの意義を自ら学ぶ機会を与えられる教員になりたい。

【方針・方法】

上記の理念を実現するために所属校では、学生には「PC活用やプレゼンの場をつくる」ということや「社会や地域を知る場をつくる」という2つの方針で活動をしている。

「PC活用やプレゼンの場をつくる」

・PC・スマホでのICTスキルアップと学生自身の振り返りにおいて、googleフォームを活用したミニッツカードの提出を毎回の授業で行っている。ミニッツカードで出た質問は、次の授業で回答をしている。

・ゼミを含む全授業「google classroom」の活用で、授業資料の配布や課題の提出を行っている。

「社会や地域を知る場をつくる」

- ・2年次ゼミでは、大学がある横浜のフィールドワークを通じて、観光やまちづくりの視点から横浜を知ってもらうことをゼミの活動としている。
- ・3年次ゼミでは、グループもしくは個人でのフィールドワークやヒアリング調査を通じて、地域の観光課題や観光事業者との接点を作ることをゼミの活動としている。
- ・4年次ゼミでは、個人の卒業課題として、卒業論文、調査研究レポート、ビジネスプランの選択を行わせ、観光やまちづくりに関する研究テーマや研究地域を決め、特定のテーマや地域に関する知識やそれに携わる人との接点を作り、大学4年間の研究の成果（アウトプット）を持って、良き社会人・地域人としてのスタートを切れるようにしている。
- ・ゼミの活動では、社会人としてのマナーや企業での業務体験の一環で「1分間スピーチ」を行うことや、名刺をゼミ生全員にプレゼントして、名刺交換などのビジネスマナーの指導を行っている。
- ・ゼミの個人課題として、観光やまちづくりに関する分野の書籍を課題図書で指定して、課題図書レポートの提出を促している。
- ・専門の観光関連科目（現代の旅行業ビジネス、旅行商品の開発研究、世界のツーリズム）では、社会や地域で活躍するゲストスピーカーを最低1回各授業で呼び、外部講師の生き方や働き方に触れる場を作っている。

【評価・成果】

- ・ゼミ4年生の旅行会社内定4名。
- ・ゼミ生から公費留学生2名。
- ・松本武雄賞への応募1名。
- ・プレゼン資料の提出先としてゼミでのSlackの活用。
- ・ゼミ3年生からの声掛けで自主的にゼミ4年生の追い出しコンパの企画・運営を行う。
- ・ゼミ合同合宿の実施。

【目標】

<短期目標>

- ・ゼミの学生評価にルーブリックの導入を行う。(2020年4月～)
- ・ゼミOB・OGのゲストトークの場づくり(ゼミOB・OGの1名をゼミの時間に招聘)を行う。(2020年9月～)
- ・ゼミOB・OGによる自主的なOB・OG会の開催の声掛けを行う。(2020年9月～)

<長期目標>

- ・現代を生きる社会力を持ってもらう授業を行う。

以上